



War Cry

8月号

福音版
2024
August
No.2874

二〇二四年 八月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

静かに響く自然の声

眞鍋 和枝



あなたは日常生活で、どのような人間関係をもっているでしょうか？ 私たちを取り巻く環境は、急激に変化しました。スマホで写真や動画を撮れば、簡単にSNSで世界中に発信できます。問題が起こったら生成AIから情報を得て解決し、煩わしい人間関係はありません。職場でも学校でもオンラインで会議や授業ができ、PCやタブレットを持ち歩けば、どこでも誰とでも、その場でつながることができます。便利な時代になりました。

先日、テレビ番組でゴリラを取り上げていました。アメリカの動物園で、来園者がスマホで動画をゴリラに見せると、ゴリラは大変興味を示し、そのうちに手を左右に振ってスマホの画面を変えるように要求し始めたというのです。その動画が拡散され、千五百万回アクセスされて話題になりました。カナダのトロント動物園では、ゴリラ舎の前に、こんな注意書きが貼られたそうです。

「ゴリラに動画などを見せないでください！」なぜそのような張り紙が貼られたかと言えば、あまりに多くの人がゴリラにスマホで動画を見せるので、ゴリラが釘付けになってしまい、その結果、ゴリラ本来の行動をとらなくなったからです。食事もとらず、家族とも交流を避け、兄ゴリラとの喧嘩が絶えなくなってしまうそうです。そこで動物園ではゴリラにスマホを見せることを禁止。その後は再び、本来のゴリラに戻ったとのことでした。

過ぎて、自分で考えたり、判断したりすることが難しくなってしまうことも事実です。私たちは、たくさん的人工的な音にも囲まれているはずの本能や感覚が衰えてしまっているのではないのでしょうか。

旧約聖書の詩編に次のような言葉があります。

「天は神の栄光を物語り 大空は御手の業を示す。昼は昼に語り伝え 夜は夜に知識を送る。話すことも、語ることもなく 声は聞こえなくても その響きは全地に その言葉は世界の果てに向かう。」(詩編19編2〜5節)

聖書は、天地を造り、人間を造られた唯一の神が愛られ、その神が私たちを愛し、大切に思っておられることを語っています。

今年の夏休み、神の物語を聞くために、スマホやPCを置き、街の雑踏から離れてのんびりと自然の中で、自然の響きに耳を傾けてみませんか？ 人工の音に囲まれている時には気づかない、生の、生きている自然の息遣いに、きつと、心が洗われることでしょう。

(救世軍士官(伝道者))

神様から与えられ、神様へ 帰っていく、感謝と賛美

宇内 千晴さん

プロフィール 上野学園大学オルガン専門卒業。ドイツ、ヴェストファーレン州立教会音楽学校（現・大学）卒業。カントール（教会音楽家）資格を取得。ピストイア賞受賞。現在、オルガニストとしてソロ及びアンサンブルなどの活動を続ける。東京基督教大学、フェリス女学院大学音楽学部非常勤講師。日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。日本リードオルガン協会会員。府中西原キリスト教会会員。



キリスト教会というと、賛美歌やオルガンの音色を連想する方も多いのではないのでしょうか。教会音楽の専門家である宇内先生に、オルガンとの出会い、信仰の歩みについてお聞きしました。

オルガンの響きに衝撃を受けて

高度成長期真つただ中、私は東京で生を受け、家族に愛されて育ちました。しかし、私の一番古い記憶は、二歳の時、祖母と母が見守る中、ひとり砂遊びをしながら「わたしってなんて孤独なんだろう」、と思っていたというものです。こんなに愛されているのに、なぜ孤独を感じるのか、わからないまま十七年という歳月が流れました。その間、私は五歳から音楽教室に通い始めました。

小学五年生の時、バッハの「インベンション」という曲が宿題に出されました。それまではほぼ毎週のように曲が進んでいたのですが、インベンションの一番は、終わるまでに一定の月日を要しました。しかしなぜかバッハは面白い、と思ったのです。これがバッハとの出会いでした。これは後からわかったことですが、この時のピアノの先生は、音楽の基礎であるバッハをし

っかり教えよう、と思っておられたとのことでした。

中学は音楽コースのある中高一貫校に進みました。三年生の時、古くなった講堂が壊され、跡地に石橋メモリアルホールが建てられました。そこには三段鍵盤のパイプオルガンが設置されており、お披露目のコンサートで、付属大学のオルガンの先生がバッハの「トッカータとフーガニ短調」を演奏されました。初めて聴く生のオルガンの響きに衝撃を受けた私は、いつかあのオルガンを弾いてみたいと思えました。やがてその思いは、オルガンを勉強したいという願いに変わり、転科の希望を両親に伝えたところ、「つぶしが効かなくなるからやめなさい」と大反対されました。しかし反抗期も相俟って、一年かけて両親を説得し、ついに転科を果たしました。

オルガンのレッスンを始

まって間もなくのこと、先生から「あなたはどう弾きたいの」と聞かれ、戸惑いました。今まで受けてきたピアノのレッスンでは、お手本を示され、そのように

神様によってしか埋められない空間

ところがその矢先、母が病に倒れ、数カ月後、帰らぬ人となりました。今までのこにいた人がいなくなる喪失感、言葉では到底言い表すことのできないものです。孤独を感じる自分の時間をもたなくなると、私はオルガンの練習に没頭しました。ところが、日曜日は学校が開いていません。そこで近くのキリスト教会に行ってみることにしました。ドキドキしながら教会を訪ねると牧師夫人が対応してくださり、礼拝に誘われました。次の日曜日に礼拝に出席してみるとパイプオルガンの奏楽はなく、しかも説教では、何が語られているのか、全くわかりませんでした。しかし何か惹きつ

けるようなものがあり、しばらく通ってみることにしました。ある日、隣に座られたご婦人から高校生会を紹介されました。そこでパスカルの「人間の心の中には神によってしか埋められない空間がある」という言葉に合ったのです。私の心の空間の原因がわかったような気がして、神様について知りたくなりました。その後、夏の高校生キャンプに参加し、信仰決心をし、その年の十一月に受洗しました。これも後でわかったことですが、当時教会は新会堂ができて間もない時で、牧師先生は奏楽者が与えられるように祈っておられたとのことでした。

ドイツでの学び、音楽は神様からの大きな賜物

大学卒業後、どうしても教会音楽を学びたく、ドイツに渡りました。ドイツでの学びはとても充実したも



「宇内さんは
いいわね、賛美
の賜物が与えら
れているから。」
確かに私は小さ

このような喜びのある奉
仕に携わりながら、一方で
私の心の中でずつと引つか
かっていることがありまし
た。それは、教会に通うよ
うになってからしばしば言
われてきた言葉
です。

演奏ができること＝賛美？

先生方がその深い呼吸から
奏でられる音楽は、とても
心地よく、まさに天へと繋
がるものと感じました。そ
して音楽は、まさに神様か
らの大きな賜物であること
を実感したのです。

「神へのいけにえは 碎
かれた霊。打たれ 碎か
れた心。」(詩篇51篇17節)
「子どものように神の
国を受け入れる者でなけ

い頃から音楽に親しみ、ド
イツにまで行って教会音楽
を学んできました。そし
て神様への賛美は音楽を伴
うことが多くありますので、
演奏ができることと賛美と
は密接な関係があるのだろ
うと思っています。しか
し根本的な「賛美とは何だ
ろう」という素朴な疑問が
ずつと心の底にあったので
す。

帰国後、私は母教会で音 楽主事をさせていただくこ とになりました。ある時、元 救世軍のタンバリン隊にい らした女性と、中高時代に 鼓隊部で活躍していた友人 と、ドイツでトロンボーン を始めた私の三人で、子ど もたちに呼びかけて音楽隊 をつくることになりました。 当時、母教会では復活祭に は野外礼拝をしており、そ の後のパレードのためのも のでした。この音楽隊は多 くの方々に喜ばれましたが、 特にタンバリン隊は、クリ スマスに行っていた老人ホ ーム訪問にも参加し、入居 者の方々、施設の方々に感 謝されました。

ある日のこと、TCUで、
ある神学の授業を聴講して
いた時、先生が「皆さん、賛
美歌を歌うことを賛美する
こと、と思っていませんか」
と問われました。ドキッと
しました。賛美するとはど
ういうことなのか、知りた
い、と思いました。そして
その思いに対し、神様は少
しずつ私にもわかるように
応えてくださいました。

「神へのいけにえは 碎
かれた霊。打たれ 碎か
れた心。」(詩篇51篇17節)
「子どものように神の
国を受け入れる者でなけ

れば、決してそこに入る
ことはできません。」(ルカ
の福音書18章17節)
この子どもたちの中には
乳児も含まれるそうです。
幼子は、お腹が空くと泣き
気持ちは良いと笑い、疲れる
と眠る。何の疑いもこだわ
りもなく周りの人に全き信
頼を置いている。はたして
私は、日々の生活の中で幼
子のような心の状態で、無
意識の領域まで神様に信頼
を置いているだろうか。イ
エス様に罪を贖われたとは
いえ、原罪によってもたら
された古い自我はしぶとく
すぐに頭をもたげてきま
す。そして私が賛美するこ
とを意識させるのです。賛
美とは、その人の心の有り
様が重要である。そのこと
に気づかせていただきまし
た。また、常に真実を尽く
してくださる神様を覚える
時、心の底から湧き出る、感
謝せずにいられない思いも
また、神様より与えられる
ものであり、私たちを通して
神様に帰着するものであ
ることも教えていただきま
した。聖書のお約束どおり、
神様は求める者には応えて
くださる方であることを思
います。

おこなわれるTCUクリス マスコンサートの内容を考 えていた時、かつて母教会 でおこなったタンバリン隊 の操練をプログラムに入れ たくなりました。それはず つと温めてきた思いでした。 そのことを救世軍の方に 相談したところ、ご理解く ださり、すばらしい指導者 を派遣してくださいました。 そしてその方の確なご指 導と学生たちの熱心な練習 の結果、学生たちは本番で 賛美歌に合わせてクリスマ スの喜びを見事に表現し、多 くの方々に喜びを与えてく れました。救世軍に伝わる 伝統の技を借 しみなく教え てくださいた ご厚意に、こ の場をお借り して心より御 礼申し上げます。

現在の私は
教育活動の傍
ら、オルガニ
ストとしてコ
ンサートホー
ルや教会など
でソロ、アン
サンブル、時
にオーケスト
ラの一人とし

ての演奏活動をしています。
また最近では大学のクワイ
アの指揮も加わり、学生た
ちとの演奏も楽しんでいま
す。私にとっては、コンサ
ートホールでの演奏も礼拝
奏楽も、演目や演奏内容が
変わるだけで、演奏するこ
とに何の違いもありません。
どちらも神様へ献げる賛美
であることを望んでいます。
そしてその思いを神様が憐
れみのうちに受け入れてく
ださり、喜んでくださるこ
と、またそれを聴いてくだ
さる方々に喜びと平安がも
たらされることを心から望
んでいます。

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

TCU クリスマスで、聖歌隊とタンバリンによる賛美 (筆者は右奥、オルガン演奏)

創立者 ウィリアム・ブース 大将 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブ・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈日本〉 ●能登半島地震被災地への支援活動 輪島塗作品の取り出し作業

能登半島地震で震度7を記録した輪島市では、伝統産業である輪島塗の工房も大きな被害を受けました。救世軍は「能登ヘルプ」(能登地震キリスト災害支援会)との連携の中で、現地のキリスト教会牧師から依頼を受け、倒壊した輪島塗工房の蔵から漆器や重箱といった貴重な作品を取り出す作業を支援しています。2018年の西日本豪雨災害以来、度々救世軍と協働してくださっている広島県の建築業者の重機チームが



輪島市に入り、作業にあたっています。これによって、作品のみならず、筆や器具、漆など、長年使われてきた貴重な道具が取り出され、職人の方々の手に戻っています。江戸時代から続く輪島塗の文化を守り、地域の産業復興に資するよう、今後もできる限りこの支援を継続していく予定です。

オンライン社会鍋(募金)はこちらから▶



〈インドネシア〉

●創立 130 周年記念集会

インドネシアの救世軍は創立130周年を迎え、5月27日から一週間、世界の救世軍のリーダーであるバッキンガム大将夫妻を迎えて記念行事や礼拝の時をもちました。5月29日には、2018年のスラウェシ島地震で大きな被害を受け、この度再建された Jono Oge 第一小隊(教会にあたる)の落成式がおこなわれました。30日には130周年を記念する礼拝がもたれ、1万人を超える救世軍兵士(信徒)が集って、インドネシアの救世軍を通して働かれた神の御業を賛美しました。同日午後には青年のための集会も開かれました。

6月2日にはジャカルタ第一小隊を会場に任官任命式がおこなわれ、36人が新たに救世軍士官(伝道者)として任官されました。神様に向かう心が新たにされ強められる時でした。



歓迎を受ける大将夫妻(中央二人)

〈万国本営(国際本部)〉

●気候変動に関するシンポジウム

世界中で気候変動の影響が拡大していることを受けて、救世軍万国本営(国際本部)では、5月21~23日に、オンラインシンポジウム「南半球における気候変動への適応とレジリエンス(回復力)」を開催しました。世界各地の救世軍から300人以上が参加し、「気候変動対策への聖書の根拠」、「世界的状況と他の組織の取り組み」など、様々なトピックについて学びました。

分野別のケーススタディでは、地域保健活動、人身取引、ジェンダーの不平等、水と衛生、農業に焦点を当てました。発題者と参加者たちは、気候変動が個人や地域社会に及ぼしている影響について共有し、これらの影響への対策として世界各地の救世軍で実施されている、多様な活動が紹介されました。

救世軍とは? What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。初期は「キリスト教伝道会」という名称でしたが、1878年、ブースはじめ指導者たちは、「我々は、キリストの福音を常に宣べ伝える軍隊“The Salvation Army”である」というインスピレーションを受け、日本語で「救世軍」と訳されるこの名称が生まれました。それに伴い、聖書のテモテへの手紙二章3節に「キリスト・イエスの立派な兵士として……」とあるように、社会悪と闘い、人々の魂を救うための迅速な行動に最も適したものとして、軍隊流の組織を整えるようになりました。礼拝や路傍伝道で、ブラスバンドやタンバリンを用いて賛美するのも特徴の一つです。



日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まり、現在に至っています。

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日

定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円 (税込)

振替 00180-5-4400

発行兼 救世軍

印刷人 代表者 スティーブ・モーリス

編集人 山谷 真

発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17

電話 03-3237-0881(代表)

Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org

印刷所 ピーアンドエス

@SAArmyJP SAArmy_JP 救世軍 The Salvation Army

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ・私の近くの救世軍を紹介してください。
- ・キリスト教についてもっと知りたいです。
- ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。
- ・相談を希望します。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆
(子ども向け紙面)

左のQRコードから、
今月の『キッズ・ゴ
スペル』を閲覧でき
ます! 聖書のお話
も動画で見られます。
ぜひ、ご覧ください!